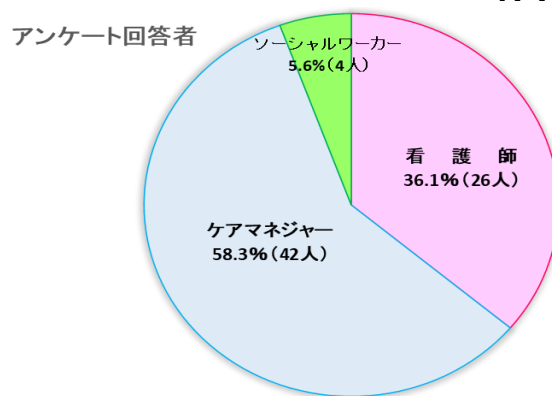


## 退院連携の実態調査の図及び表

N : 72人

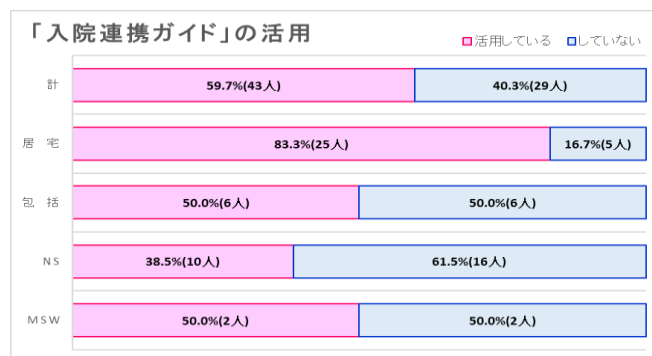
### 【図 1】 アンケート回答者

・ケアマネジャーが約6割、看護師が約4割を占めている。



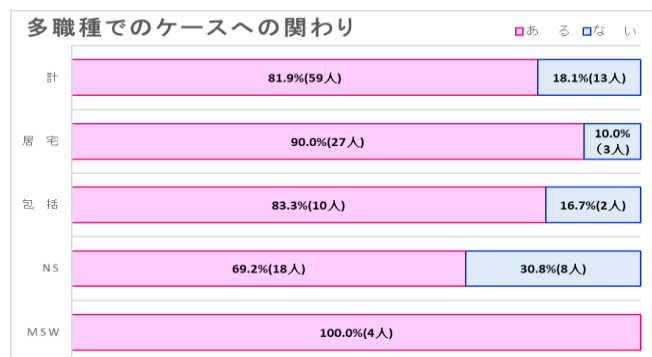
### 【図 2】 連携ガイドの活用

・「入院連携ガイド」は、居宅のケアマネに最も活用され、看護師の活用割合が低くなっている。



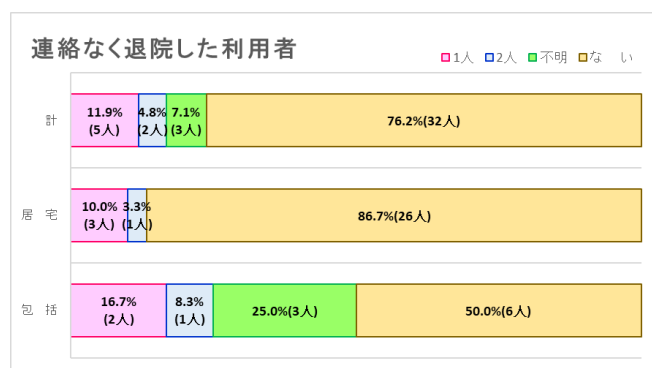
### 【図 3】 多職種でのケースへの関わり

・回答者の8割が、ケースと多職種で関わりを持っている。



### 【図 4】 連絡なく退院した利用者

・連絡のないまま退院となった利用者を担当した経験があるケアマネは約2割で、居宅のケアマネより包括のケアマネが約2倍と高率である。



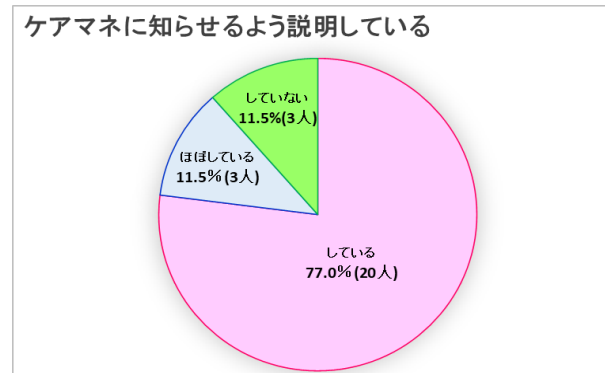
### 【表 1】 ケアマネのいる患者の退院支援に関わった人数

	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	31以上	計(人)
よした病院	2	9					11人
糸 病	2	1	3	3	3	3	15人
計	4	10	3	3	3	3	26人

・回答をいただいた看護師は、関わりを持った人数にバラつきはあるが、全員が退院支援に関わりを持ったことがある。

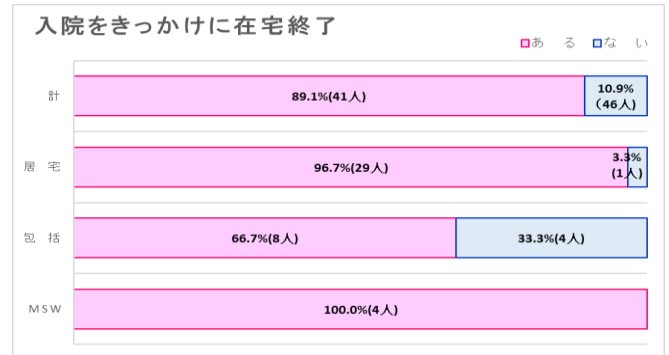
**【図 5】 ケアマネに知らせるよう説明している**

・9割近くの看護師は、本人または家族に退院許可をケアマネに知らせるよう説明している。



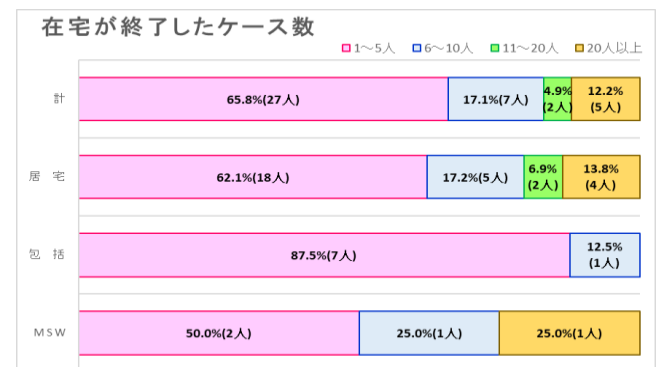
**【図 6】 入院をきっかけに在宅終了**

・約9割の方が、入院をきっかけに在宅療養が終了となっている。



**【図 7】 在宅が終了したケース数**

・入院をきっかけに在宅療養を終了したケース、1～5人に関わったことのあるケアマネ等は7割近くではあるが、20人以上関わったことがあるケアマネ等も1割以上みられる。



**【図 8】 在宅終了後の状況**

・在宅が終了したのちの状況として、『死亡』が約半数を占め、次いで『施設入所』『入院継続』となっている。

